

一般質問

市政を問う

9月定例議会では15人の議員が登壇し質問を行いました。



消防団の報酬・費用弁償の改善を

市長／他との均衡を考慮し検討する



さとう 議員
さとう 悟 議員

核と位置づけ、出勤報酬は標準額8000円とするよう各自治体へ通知した。適切な報酬、費用弁償の処遇改善が必要であると考えるかどうか。

②班長以上の報酬、出勤手当の見直しは、周辺自治体との均衡を考慮し、検討する。

議員 ①緊急消防援助隊宮城県大隊の構成、任務と役割、市からの派遣隊員数、後方支援活動訓練の内容はどうか。

②総務省・消防庁は、非常勤消防団を地域防災力の中心とする。

市長 ①大規模な災害が発生した場合、消防庁長官の要請に基づき、都道府県を越えて被災地の消防の応援を行う。3ブロック114隊415人(市は6隊25人)で構成。訓練の内容は支援

ハラスメント防止ジェンダー平等

議員 ハラスメント(部下に加えるいじめなど)、ジェンダー(男女の社会的な性差別)に基づく暴力を根絶し、個人の尊厳などの推進を期さなければならない。市職員に対する啓発活動、「ハラスメント防止対策委員会」の設置、環境づくりはどうか。



地域防災を担う消防団

市長 部長・総合支所長、課長級の職員を対象に正しい知識を身につけるため、10月29日研修会を開催。相談は人事課が窓口となり対応している。防止対策委員会の設置、規則の制定を検討中である。



救済せよ米価暴落にあえぐ米農家を

市長／生産者への支援を早急に検討



あべ きたみ 議員
阿部 貞光

議員 令和3年産米は生産の目安を達成したが、コロナ禍による消費減などから適正在庫を50万トも上回る状況にある。青森県本部では、農家概算金を過去最大の3400円下げと発表。

全農宮城は概算金をまだ示していないが、このような状況では農家が経営を継続できないと考える。農家救済策と令和4年度の作付け誘導策を聞く。

市長 農家の声を聴き、平成26年度に米価が下落し実施した、農業経営維持資金に対する利子補給制度などを踏まえ、支援を早急に検討する。また、令和4年産については関係機関と米の



生産の目安を達成しても大暴落の米価

供給状況など情報を共有し、農業再生協議会で誘導方法など協議していく。

議員 スポーツの原点は、幼児期から遊びを通して身体を動かす事を習慣づける事が大切である。自治会への遊具設置補助制度の創設を求めるがどうか。また旧築館自動車学校跡地を借上げスケートボードやバスケットボール3×3など、子供や若者の集う場として提供できないか。

市長 私のスローガンに身近な公園の整備があり、コロナ禍において近くの公園など外で遊ぶことも大切だと思っている。地域の意見や意向を聴き、一括交付金で運用できないか検討・研究する。また、旧築館自動車学校跡地については、利活用の可能性を調査・研究していく。

子供や若者の集う場所を



さわべ かつひろ 議員
澤邊 幸浩



高齢ドライバーの安心を守れ

市長／支援施策の拡充を推進する



安全運転の啓発活動推進を

議員 高齢化社会における市内の高齢ドライバーが増大する中で、運転者の生活と安全を守るために、安全運転の啓発活動の現状はどうか。また、高齢者の運転免許証自主返納を推進するための、支援施策はどうなされているのか。

市長 安全運転の啓発活動については、啓発チラシや啓発物品を高齢者世帯に配るなど、交通安全・交通事故防止の注意喚起に取り組んでいる。運転免許証の自主返納を推進するにあたり、ホームページなどによる事業の啓発などを行いながら、支援内容の拡充を図る。

議員 空き家等対策を推進するにあたり、今後の空き家などの適正管理と問題解決に向けた取組において、空き家などを活用した農泊事業や、滞在型市民農園といったグリーン・ツーリズムを対策の一端として展開できないものか。

市長 現在、空き家を借用し、農村体験や農泊を実施する事例や、民泊やカフェを開業している事例もあり、今後関係機関と情報共有を図りながら、事業の展開について検討して行く。

議員 栗駒山麓ジオパーク活動を通じて、地すべり地を見学できる環境を整備して、この地域資源を活用した地域振興へと取り組むことはできないか。

市長 荒砥沢地すべりの見学環境については、周辺地は土地が不安定で危険な箇所もあり、見学については安全指導を行う職員・ガイドが帯同しての、ジオパーク活動に限定している。

市内の高齢ドライバーが増大する中で、運転者の生活と安全を守るために、安全運転の啓発活動の現状はどうか。また、高齢者の運転免許証自主返納を推進するための、支援施策はどうなされているのか。



相馬 勝義 議員



くりこま高原駅周辺の開発

市長／民間の力も活用しながら進めたい



駅前開発は移住定住の起爆剤

議員 少子高齢化が進む中、移住・交流拠点として早急に開発することが、人口減少などの歯止めにつながる。考えるが、整備計画は。

市長 地の利を生かした定住促進を図るため、民間の力も活用しながら進める。

くりはら交流プラザの支援

議員 厳しい状況に当たりどう支援するのか。施設をどう活用していくのか。

市長 第三セクターの経営状況として大変厳しいものがある。経営診断で指摘されている赤字部門の事業の縮小や固定費の削減など、将来を見据えた抜本的な見直しが必要と考える。

支障木撤去 県へ要請を

議員 現在の自然災害を考えた場合、鶯沢の中館前地区、袋地区の河川の支障木早期撤去を県に働きかける必要があると考えるが。

市長 坂下地区の伐採は3年度に予定し、また、支障木や土砂撤去が必要な区間は引き続き対応したいと聞いている。河川管理に支障をきたすことのないよう、県に強く要望していきたい。

抗体カクテル療法について

議員 ホテル療養者も抗体カクテル療法は可能か。

市長 県では抗体カクテル療法センターを、仙台市中心部の宿泊療養施設に設け運用を始めている。宿泊療養者などのうち、治療が必要と判断された方がセンターにおいて治療を受ける。



個人経営のカントリー施設



多様な農業経営の支援について

市長／優位性を生かした営農への支援



黒木 一孝 議員

議員 市長の公約に次世代スマート農業や家族農業など多様な農業経営への支援をするところがあるが、具体的な支援とは何か。

市長 農家で一番大変なのが草刈り作業なので、軽作業などの機械導入に助成をする。

議員 第2次総合計画後期基本計画(案)の中に築館宮野地区の計画が含まれていると理解してよいか。

市長 くりこま高原駅から築館宮野地区までの第2次総合計画の土地利用構想を踏まえたものである。

農作物有害獣被害防護設備設置事業

議員 本事業は多くの農家から防護設備設置の要望がある。今年度は3か所の実施計画であるが、次年度は何キロぐらいの実施計画なのか。

市長 10月から行政区長を通じて設置事業の説明を行い、要望を聞き令和4年度の計画に反映させる。

議員 電柵の補助金について、申請しても受理されないという聞か、9月補正で計上するのか。

市長 農作物の被害防止に向けて、400万円を9月補正予算で計上した。

市道整備について

議員 市道宗七坂線、市道都田線の整備は。

市長 宗七坂線は財源確保ができ予算計上をした。都田線は、文化財保護課と協議しながら早期完成を目指す。上田線は財政面などを考慮し、改めて検討する。



コロナワクチン優先接種順を示せ

市長／市独自の優先接種順を含めて検討



議員 菊地 ひろし

議員 新型コロナウイルス感染症ワクチンの3回目の接種を行う場合、年代別の接種順番の見直しや、優先接種でなかった介護職や障害者施設の職員、デイサービスやケアマネージャーなどの職員にも優先接種の方向で実施

してほしいがどうか。

市長 市では医療供給体制の確保や、重症化のリスクが高い方を優先にという国の方針に基づき順次接種を進めてきた。3回目接種については、対象者や優先順位など国から具体的な方針が示されていないが、国の動向を注視しながら、市独自の優先接種を含め検討。

商工業者へのコロナ支援策

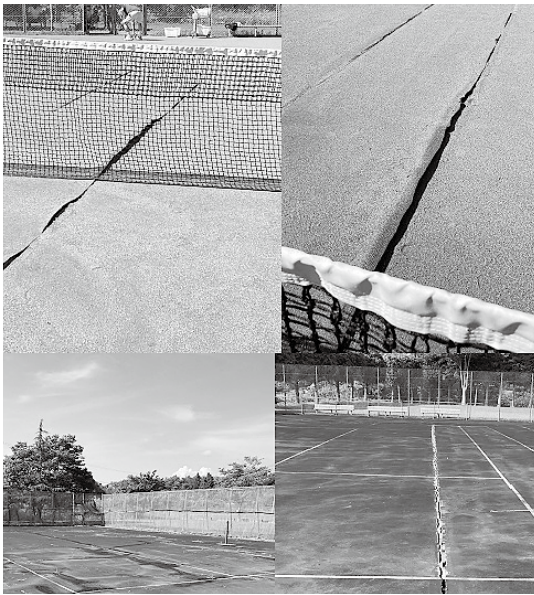
議員 市では感染防止の対策や販路開拓、生産性の向上に向けた取組に対して、さらに市内の中小企業が1社でも多く感染予防に取り組んでもらえるよう、継続した支援事業を実施してほしいと思うがどうか。

市長 市では県や商工会と連携し、経営支援に努めてきた。緊急事態宣言の影響がある事業者支援を目的に交付される、臨時交付金を活用した支援策を検討中。

市テニスコート修繕計画あるか

議員 市内の大半のテニスコートが老朽化や傷みで使える状態に無い。今後修理や補修の予定はあるのか。

教育長 テニスコートは修理着手に向け使用頻度を見ながら、計画的に補修し喜んで使ってもらえるような環境の所を優先的に補修。



補修が必要な市内のテニスコート

駅前駐車場使用料引き上げやめよ

市長／維持管理費の受益者負担をお願い



議員 菅原 ゆうき



ガラ空きの有料A駐車場（時間貸）

議員 ①くりこま高原駅前の現状の時間貸、月極、無料の利用状況とそれぞれの使用料は。②無料駐車場を減らすことは駅に隣接する大型商業施設への無断駐車が行われるのではないかと危惧するが、その検討はしたか。また、現状で無断駐車の有無は確認しているか。③使用料の引き上げ、無料駐車場を減らしての有料化スペース増は行わないように求めるがいかがか。

市長 ①8月分の利用状況は、時間貸し駐車場1529台、37万5250円、月極駐車場契約台数110台、31万6680円である。無料駐車場の利用状況は調査していない。②大型商業施設への無断駐車について市で実態把握はしていない。イオンスーパーセンター栗原志波姫店に聞き取りをしたところ、毎朝警備員が巡回しており、無断駐車はないとのことである。また、2日以上駐車している車両を確認した場合は、注意喚起の張り紙をしているとのことである。③管制機器更新と管理方法の見直しにより、決済方法の多様化や防犯カメラの設置など、犯罪抑止効果をはじめ、利用者の利便性と安全性が大幅に向上する。また、迷惑駐車や放置自動車などの解消が図られ、快適に利用できる環境が整うことから、維持管理費に見合う受益者負担をお願いする。

◎その他の質問

25人学級、学校給食無償化、財政運営、デマンド交通見直し、水害対策、市民要望の取組などについて質した。



みうら よしひろ 三浦 善浩 議員



高齢化する農業従事者に寄り添え

市長／話し合いをしながら進めていく



急勾配なため池の堤体

議員 少子高齢化や後継者不足は、たいへんな問題となっている。市の基幹産業である農業でも例外ではない。そこで次の点について聞く。①市の農業従事者の平均年齢は何歳か。②「ため池の堤体の勾配がきつくなり降りが大変だ。」という声に応えると共に、安全対策や事故防止などの観点から必要に応じ階段、手摺り、ロープなどの設置を検討すべきと考えるがどうか。

市長 ①農水省によると、2010年は全国が66歳、宮城県が65・3歳、市が66・4歳。2015年は全国及び県が67歳、市が68・1歳。2020年は、全国が67・8歳で県と市は未公表。②提案の構造物は、管理している地元関係者と相談しながら調査していく。

議員 地球温暖化に伴い、全国各地で場所を選ばずに大雨による災害が発生している。そうした中で、行政も河川改修や治水施設の整備など、さまざまな取組を行っているが、莫大な費用と長い年月が必要になる。次の点について聞く。

①補助する仕組みを検討しては。②中核機能地域の上流域をモデル地区とした事業化などをしては。

市長 まずは、内容の周知を図ることが重要である。

「田んぼダム」のモデル事業化を進めよ
議員 地球温暖化に伴い、全国各地で場所を選ばずに大雨による災害が発生している。そうした中で、行政も河川改修や治水施設の整備など、さまざまな取組を行っているが、莫大な費用と長い年月が必要になる。次の点について聞く。



一の堰頭首工（栗駒文字）

議員 栗駒地区にある一の堰用水路は、高松清水田・宝領・大鳥・八幡地区の水源で、水量が少なく1週間に1回の番水になっている。この現状を市長はどう思うのか。

議員 5月の連休に田植えを行うので、番水の開始時期を早めてほしいとの声があるが。

市長 水利権の更新は10年に1回で、平成25年の更新時に、晩期栽培などから番水開始時期を4月21日から

議員 26日に変更している。しかし、流域の方からも早めるよう要請があるので、令和5年度の水利権更新にあたり、迫川土地改良区と東北農政局との協議で、前倒しを検討している。

議員 保健所の対応にも限度がある。県と市の連携、応援体制について聞く。

市長 今年4月と8月に計25日間、延べ35人の保健師などを派遣している。

議員 今年インフルエンザ予防接種への対応は。

市長 10月1日から各医療機関で実施。中学3年生までの子どもと65歳以上の高齢者を対象に接種費用の助成を行う。

議員 コロナで自宅療養している患者への対応は。

市長 栗原保健所が定期的に電話などで患者の健康状態を把握している。また、体調が悪化した場合には、24時間体制で栗原保健所が対応する。

一の堰用水路の番水解消へ行動を

市長／番水解消は必要、関係機関と協議



たか かし 高橋 議員





米価大幅下落対策と市農政を質す

市長／減収額約15億円、支援検討する



議員 小野 久一

議員 全農県本部は9月10日、各農協に支払う令和3年産米の概算金をひとめぼれで前年より3100円下げの9500円と決めた。大幅な下落であり農家の喜しに影響を及ぼすことは



米価暴落ねじりほんによる怒りの脱穀

確実である。政府はコロナ禍で生まれた過剰在庫を市場から隔離もせず、消費量の1割以上にもなる77万トンの輸入米を減らすでもない。政府の無策農政への市長の見解を求める。

粟原市農家の減収額はどれほどか。また市はどのような対策を考えているか。

市長 コロナ感染症の拡大、緊急事態宣言による外出自粛が継続し外食需要が激減している。生産者の経営努力だけでは限界があり、全国知事会が提言した「米の大規模な市場隔離」を実施するなど国が抜本的な対策をすることが必要である。

議員 市土地改良事業補助金の申請が15件あり、すべての申請団体に交付するため、補助金を半額にするというが補正予算で対応すべきでないか。

市長 補正で必要額を計上するよう協議している。

議員 「二連水車」の1つが回転していない。二連水車は荒砥沢ダムと栗駒山へと続く重要な観光ルートであり市で維持管理すべきだ。

市長 市が年度内完了を目指し修繕を計画している。

納税貯蓄組合の在り方を問う

市長／検証し見直しをしていきたい



議員 菅原 麻紀



納付明細の取扱を考えて

市長 組合員から税額表示の同意を得ている組合には税額一覧表を渡している。組合員相互の信頼の下にあることが大前提であり、組合長には個人情報取扱は十分留意するよう説明している。

議員 明細不要の書類は統一されているのか。

市長 税額一覧表については税務課に申し出てもらえば送付を止めることにしており、対応については統一している。しかし、税額表示については今後納税貯蓄組合と協議を行い改めて対応を検討していく。

議員 補助金交付は100%完納という目的とのズレを感じる。組合加入で口座振替されなくても交付になるのはどうなのか。補助金の見直しを求める。

市長 合併して以来、いろいろな形で補助金について議論してきた。

口座振替やコンビニ収納も普及しているので組合発足当時とはだいぶ環境の変化がある。しっかりと検証し、見直しをしなければならぬと感じている。

議員 合併して17年になるが、口座振替やコンビニ払いの件数はどのくらい変化があったのか。

市長 平成17年度は28.6%、令和2年度が35.9%で7.3%増となっている。コンビニ納付は開始当初で3万285件、令和2年度8万5807件で5万5522件の増になっている。

議員 組合長に個人全員の納付額の明細が届くのはいいかがなものか。



さききよしろう 議員 佐々木嘉郎



栗原の未来づくりしっかりと

市長／公園整備は市民の声をきく



宮野地区栗原中央病院を上空から見る

議員 栗原市立病院の医師確保のために、修学一時金の貸付制度、金額の見直しを図るべきではないか。

病院管理者 現行制度は医学部入学金の負担軽減のために760万円を貸し付ける。これに加え在学中の学費負担軽減のための制度としたい。6年間で1520万円となる。

議員 高齢化で市内医師の激減が危惧される。市内にある県立高校の生徒が、医

師になる夢を持つような教育を望むが。

市長 まずは市立病院の医師確保に取り組んでいく。

議員 本市奨学金返還で市内在住を条件に、一部免除してはどうか。働き手の確保が期待されるが。

教育長 将来も運用できるように現制度を継続する。市の奨学金と他の奨学金が併用できるようにしたい。

議員 少子高齢化、人口大減少時代に宮野地区に中核機能を作ること、どのような活性化があるか。

市長 新しい中心地区として10地区がつながり、市全体の魅力を高めていく。多世代多地域の交流やにぎわいが創れる。

議員 計画の総面積は。

市長 約5畝である。

議員 都市機能充実や歩いて暮らせる地域、オール栗原をけん引するための計画とあるが可能か。

市長 公園整備は必要性など市民の声を聴きたい。

議員 ここはわずか167ミリの降雨で浸水した。

市長 治水など国・県と連携を取り、迫川の改修が必要だと認識している。



使用禁止のままの木製遊具



公園遊具の管理は適切か

市長／国の安全指針以下は使用禁止も



さとう ふみお 議員 佐藤 文男

議員 緊急事態宣言中、市管理の公園遊具は使用禁止にしたが、使用禁止にしてないところもあった。市管理以外の公園遊具は他にどの程度あるか。

市長 市管理以外の公園遊具

具個所数は把握していない。

議員 木製遊具で使用禁止が続いている遊具もある。修理や更新をするのか。

市長 牛淵公園と花山地区の公園で、木材部分の腐食を確認した。国が示す安全指針を満たしていないことが指摘され、危険な遊具の撤去に向けて、地域の意向を聞いている。またより次第早期に対応する。

議員 大人を対象とした健

康遊具も設置すべきでは。

市長 市民の意向を確認しながら検討していく。

高齢者補聴器購入に助成を

議員 高齢者になると聴力低下でコミュニケーションが取りにくくなり、家族や社会から孤立し、認知症発症の大きな要因になると言われている。認知症になることにより、結果的に医療費の増大につながる。しかし、個々に合った補聴器の購入は、高額なため購入を躊躇する方が多いようだ。こうした高齢者に対し、日常生活でのより良いコミュニケーションの確保と、積極的な社会参加を促すことを目的として、補聴器の購入助成をする自治体も増えている。栗原市も助成制度を創設すべきと思うが。

市長 国の公的補助が望ましい。引き続き国に要請していく。



デマンド初乗り助成を延長せよ

市長／実証実験の成果をみて検討



みづもと 三塚 東 議員

議員 市長は、鷺沢地区のデマンド交通の登録者を対象に、栗駒地区へのタクシー利用料を1人当たり初乗り680円の4回相当額、月額2720円を助成するとしている。



初乗り 680 円助成の実証実験

助成はいつまでか。

市長 利用者の需要や利便性、民間タクシーへの影響を確認し、持続性などの調査が目的。市の公共交通計画の策定に向けた検討資料に活用するため、令和3年度までの予定としている。令和4年4月以降は、予算編成の時に改めて検討していく。

議員 6か月間の試行期間では、十分なデータが得られないのではないか。12月議会で膨らんだ予算を追加する考えはないか。

市長 今回はまず試験運行の予算で、令和元年度の登録者数82人と同じ利用者を見込んでいる。高齢者福祉タクシーと同じ初乗り4回分の助成であるが、利用状況をみながら予算が不足すれば追加補正も考える。

また、6か月間で成果が分からないのであれば、来年度の予算で引き続き実証実験を続ける方法もある。

議員 高齢者福祉タクシーは、通院の人が対象の助成である。今回の試験運行はデマンド交通を利用する人への助成であると考えながら、使用できる範囲を広げた利用にすべきでないか。

市長 まずは初乗り助成のスタートであり、680円では足りないなどの意見もあるかもしれないが、今後のデマンド交通の組み立てと実証実験も兼ねている。

稲作農家を支援せよ

市長／生産者への支援を検討



いしかわ しょうん 石川 正運 議員



米は安い、やらくなくちゃ

議員 米価下落はコロナ発生に伴うことも大きな要因である。災害級の対応と、地域経済の活性化に資するためにも、米作農家支援として10a1万5000円の助成を提案するがどうか。

市長 出荷状況や国・県の動向を注視しながら農家の方々の声を聴き、過去の米価下落の対応も踏まえ、新みやぎ農業協同組合とも連携し、生産への支援を検討する。

湖沼の現状を問う

議員 伊豆沼、内沼の水質の改善と、内沼のハスの生育状況は。

市長 沼の水質は、4年連続でワーストワンという状況である。

今後、県や伊豆沼・内沼環境保全財団などと協議し、自然再生事業を推進していく体制を作っていく。

ハスは本来、拡大と消失を繰り返す性質の植物であると環境保全財団から報告されている。

ハスを含めた水生植物の適正管理を目指していく。

議員 令和3年産米の概算金は、ひとめぼれ一等米60kg9100円、2年産米に対し3100円25・4%減、つや姫、ササニシキも3100円から3000円の減と報じられているが、本年産米の下落で米作農家の減収の試算はいくらか。

市長 新みやぎ農協栗駒地区本部の主食用米出荷契約数量の試算では、15億3366万4550円の減額となる。